

一人がみんなのために
みんなが一人のために

経済

経済支部ニュース第 11 号
2019 年 6 月 17 日発行
発行責任者 野地喜徳
編集責任者 斉藤修二
都庁職経済支部
TEL 03-5320-7411
〒163-8001 新宿区西新宿 2-8-1

第90回三多摩メーデー

3千人が参加！

5月1日、第90回三多摩メーデーが三鷹市の井の頭公園で約3千人の参加で開催されました。前日の大雨にも関わらず、新緑の五月晴れの中、経済支部も30名の参加がありました。



芳賀次郎実行委員長(三多摩労連議長)が主催者あいさつ。8時間働けば普通に暮らせる社会へ、最低時給1,500円以上を全国で実現し、7月の参院選で「消費税増税や戦争する国づくりをやめさせるために、私たちの底力を見せよう」と呼びかけました。

次に、争議団や各課題に取り組む人たちがアピールしました。衛生局支部の組合員は、行政医療の削減につながる都立病院の独立行政法人化に反対を表明し、また、米軍横田基地撤去を求める西多摩の会と賛同者が危険なオスプレイの配備撤回を訴えました。

式典終了後、野地支部長の挨拶があり、お米券など商品券が当たるお楽しみ抽選会が行われました。当選された方は、おめでとうございます。

11時から「なくせ貧困と格差大幅賃上げ・底上げで景気回復！安倍9条改悪反対、戦争法廃止！」と書かれた横断幕を掲げ、シユプレヒコール

2019年度経済支部定期大会のお知らせ

(日時) 2019年6月29日(土曜日) 13時から

(場所) 都庁第二本庁舎32階都庁職会議室

2019年度の支部定期大会を開催いたします。各分会の代議員の皆様は、当日第二本庁舎北口玄関で職員証を提示して、入庁してください。

都庁職会議室は一階奥のエレベーターのゲートから入ります。

をあげ吉祥寺駅近くまで元気にデモ行進を行いました。暑い中、参加された方本当にご苦労さまでした。我々の賃上げ、労働条件の改善に向け皆さん頑張りましょう。

有明防災公園で5・3憲法集会を開催

6万5千人が参加

日本国憲法の施行から72回目の憲法記念日となる5月3日(祝)午後1時から有明防災公園(東京臨海広域防災公園)で、憲法集会が開催されました。経済支部からは6人が参加しました。「平和といのちと人権を!一許すな!安倍改憲発議5・3憲法集会2019」は、毎月19日に議員会館前行動を行っている「戦争させない・9条



災害ボランティア活動に従事して

壊すな!総がかり行動実行委員会」が呼びかけた実行委の主催で2015年5月から毎年開催されており、今年で4回目となります。今年は過去最高となる6万5千人(主催者発表)が参加し、著名人や4野党1会派の党首らがスピーチし、「安倍政権による改憲発議を許さず、憲法を守ろう」と訴えました。主催者あいさつした高田健さん(総がかり行動実行委員会共同代表)は、安倍政権の改憲策動を私たちの運動ではね返してきたと強調。「市民と野党の共同の力で国会会での改憲発議を阻止し、参院選で改憲勢力を打ち倒そう」と呼びかけました。

4氏のゲストスピーカーや安倍政治とたたかう市民らが発言。集会後、市民団体とともに有明駅までデモ行進を行いました。

東日本大震災が発生してから8年。当時は津波が沿岸部の町を呑み込んでいく場面や、原子力発電所の破壊の様子が何度も放映されていました。今までは震災の状況をテレビ画面でしか見たことがありませんでした。以前から現地に行って震災の状

況をこの目で見てみたい、微力ながらも現地の方々の役に立ちたいという思いがあり、それが今回の災害ボランティア活動に参加した理由です。

3月15日に現地入りをして、16日から17日の2日間、経済支部の組合員4名で参加しました。活動の依頼は一軒家に住む高齢の農家女性からでした。自宅裏にある高さ10メートルほどの急斜面に生えている雑草や木を伐採してかさ落とし、それを集めて指定場所に捨てるという作業でした。

高齢女性は「ボランティアの方々が作業してくれて本当に助かります」と喜んでくれました。休憩の合間に私は高齢女性に「ご家族はどうされているのですか?」と尋ねると、避難指示解除当日がご主人の葬儀だったそうで「子供たちは放射能汚染からの避難で郡山と宇都宮に離れて暮らして戻ってきてません。8年も経つと移住先にも住み慣れてしまい、戻るとなると孫が転校しなければならぬので・・・」とのこと。その話を聞き深い悲しみを感じました。原子力発電所の放射能汚染により、家族が離ればなれになり、元の家族生活に戻れていない現状がそこにありました。高齢女性は何度も呟いていました。「東電さえ無ければ・・・」「東電が事故起こさなければ・・・」と。現地入りした時は、かつてテレビで見た状況より道路は整備され、復興へ着実に進んで

いるように感じましたが、実際は私たちでは見えないところで被災された方々の傷が未だ癒えずに残っています。今回参加した活動はわずか2日足らずでした。一定の「達成感」と心地よい疲れとともに帰路につき、翌日から私は、今まで通りの生活に戻りましたが、被災地の人たちの苦難は今後も続くのだと思います。そう考えると、この活動をただ「いい経験をさせてもらった」「地震・津波の恐ろしさがよくわかった」などというような、単なる過去の思い出として終わらせたくはありません。これを機会に、私は今後もずっと東北の被災地を見つめて、より多くの人々にこの経験を伝えていきたいと考えています。これからも、微力ながら復興のお役に立ちたいと思います。貴重な経験をさせていただきました。この場を借りて、経済支部をはじめお世話になった方々にもお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

